受賞おめでとうございます

新井宿自治会連合会　感謝状贈呈（敬称略）

◇退任副会長
稲田　祐命　　田中　亨

◇永年表彰
阿部　和崇　　及川　忠範　　石井　貴久　　栗本　光男
松原ミヤ子　　菊池　司郎　　堅田　清子　　大矢　雅江
武井　義孝　　菅原　榮喜

大田区交通安全功労者表彰
吉澤　雄一

入新井第四小学校に『わがまち新井宿文庫』誕生！

今春、入新井第四小学校の図書室に『わがまち新井宿文庫』という本棚が誕生しました。地域ゆかりの小説家、画家などによる本を集めたコーナーです。おや、地域情報紙「わがまち新井宿」も棚にあるではありませんか。前川校長は「現在の倍ぐらいのボリュームを目標に充実させたい」と楽しそうに話します。こども達に難しいものでも、地域の文化に触れる機会を少しでも多く持たせたいそうです。そして、「もしこの棚に寄贈して頂ける本があるようでしたら喜んで受け取りますので、是非宜しくお願いします」とのことでした。

編集後記

8月15日を迎えると、終戦特別番組が放送されますが、直接戦争を体験された方は、数少なくなっています。戦争の悲惨を語れる人が少なくなっていることは深刻な問題です。今回の企画は、昭和を駆け抜けた絵本作家と、80年前のこの町の様子を特集してみました。薄れゆく記憶を歴史としてつむぎ直してみませんか。　（吉川編集委員）

新井宿特別出張所管内の世帯と人口　令和7年6月1日現在

●世帯数…12,080世帯　　前年同月比 +42世帯
●総人口…21,992人　　前年同月比 -52人（男-28人　女-24人）
（男…10,925人　女…11,067人）

新井宿地区　自治会・町会　夏の行事日程

大人から子どもまで楽しめる企画がたくさんあります。
ご家族でぜひご参加ください！

開催日	イベント	会場	主催
8月23日(土)	納涼祭	春日神社境内	中央一丁目町会
8月23日(土)	盆踊り大会	新井宿七丁目児童公園	新井宿七丁目町会
8月24日(日)	防災こどもまつり	山王公園	山王三・四丁目自治会
8月24日(日)	西瓜割り大会	大森第三中学校校庭	中央四丁目町会
8月29日(金)30日(土)	盆踊り大会	さくら通り三丁目公園	新井宿六丁目町会
8月31日(日)	ウォーターランド	さくら通り三丁目公園	新井宿六丁目町会
9月5日(金)～7日(日)	熊野神社例大祭	7日は池上通りでパレードを実施	熊野神社

詳細は各町会・自治会の掲示板等をご確認ください。

発　行　地域力推進新井宿地区委員会
編　集　「わがまち新井宿」編集委員会

中央一丁目町会	編集委員長	関口　直人
山王三丁目町会	副編集委員長	吉川　信一
新井宿五丁目町会	副編集委員長	谷口　敏子
山王三丁目東自治会	編集委員	荒木　秀樹
山王三・四丁目自治会	編集委員	三沢清太郎
山王三・四丁目自治会	編集委員	岡本　浩子
山王三・四丁目自治会	編集委員	髙橋　弘樹
山王三丁目町会	編集委員	小関　智子
中央一丁目町会	編集委員	形見　俊郎
中央四丁目町会	編集委員	佐々木泰子
新井宿五丁目町会	編集委員	加藤　弘子
新井宿六丁目町会	編集委員	松木由紀子
新井宿六丁目町会	編集委員	斉木　貞子
新井宿七丁目町会	編集委員	本田　君子

……共同編集……
監　修　新井宿自治会連合会
事務局　大田区新井宿特別出張所
大田区中央1-21-6　☎3776-5391
http://www.city.ota.tokyo.jp/omori/index.html

新井宿　俳句のたしなみ講座より

青梅の丸きうぶ毛に光る雨　（荒蒔　正美）

百合ひらく決心揺らぐことなかれ　（山根　繁義）

わがまち Araijuku 新井宿

「つめたすぎてあたまがキーンとなるパフェ」（はり絵）
入二小四年
石井（いしい）　里菜（りな）さんの作品

●地域ゆかりの文化人　絵本作家『せなけいこ』の怪走　黒田かおる

「スタタタタタ…」これは一体何の音であろうか?この音はなんと私の母である、せなけいこが臼田坂下商店街を駆け抜けている音である。時は、昭和38年～60年くらいの事か。その間に店も随分変わってしまったが。何しろ、みのり幼稚園の隣に婚家があり、10分圏内で全てのことが事足りる所に住んでいたのである。母曰く、「こんなに便利な所に住んだことがない」そう、大田区役所まで徒歩7分(今は移転)。都民銀行まで徒歩5分。そして賑やかな商店街の中に彼女のお気に入りの古本屋が2軒と普通の本屋が1軒、気に入らないわけがない。

母が嫁いだのは、落語家の六代目柳亭燕路(本名黒田健之助)の家で、その母は町内会婦人部の会長をしていた。だから、引っ越しをしてきた日に、トラックいっぱいの本を積んでやって来た嫁は、当然近所の人達から好奇の目で見られ、「赤の嫁さんが来た」などと言われていたが、婦人部会長の祖母のお陰で、表立って悪く言われることはなかった。ありがたいことである。しかし、性格はかなりの変わり者ゆえ奇行が目立つ。そんな母の1日を臼田坂下商店街を絡めて追ってみよう。

まず、朝は遅い。父曰く、「雨戸が日に当たって、そっくり返ってもまだ起きない」それを祖母に文句を言うと「自分が好きでもらった嫁だろう?」と取り合ってもらえなかった、と聞いている。そんな祖母と母は仲が良かった。あるいは、祖母が人格者だけだったのかも知れないが。そしてゆっくり起きて朝食を食べ、本日何をするべきかを、必要順に上から考えていく。銀行に行ってから役所に寄り、古本屋の山王書房で本を見てから、一旦帰る。この頃は、まだカット描きの仕事をしていたので、それをやらねばならぬ。しかし朝に弱い人であるので、恐らく山王書房にいる時間が長い。その間はバッチリ目が開いている。欲しい本が沢山ある。店主は面白い人であり、また魅力的な変わり者。変わり者同士、気が合った。ついつい長居をしがち。母は晩年になるまで常に、「あー、午前中はエンジンがかからない!」と叫んでいた、典型的な「宵っ張りの朝寝坊」である。

しかし、仕事をしながら主婦でもあったので、毎日買い物は欠かせない。因みに、母の家事の得意な順番は①買い物②料理③お裁縫④掃除、である。専業主婦なら怒られそうな順位。これだから深窓の令嬢は…。ええ、母はお嬢様育ちである。それなのにいきなり庶民の家に嫁いだ。だから子供が出来ると、なお一層、1日1回以上は外の空気を吸いつつ、幸せそうに商店街へ。

まず、臼田坂下の浜田文房具店で、絵本を作る時に使う台紙と色紙を特注していたのを買う。近くにあった魚屋で本日の魚を見繕い、向かいの八百屋で野菜と果物を買い、鋳掛け屋で直してもらった傘と鞄を引き取って一旦帰る。重いのだ。母は体が小さい。そしてお昼を食べてから、午後は仕事。

夕方、子供達の保育園のお迎え後、マイマートというスーパーで買い物。子供達が10円のガチャガチャをやりたがるので、1回やらせる。子供達はガチャガチャの中身の指環が目当てである。「あっ、今日はルビーかぁ」「いいなー、私はエメラルドだった。ルビーかサファイアが良かったなぁ」10円でもこれだけ楽しめる。安い兄妹であった。帰ってから、夕飯を作り、食べてからお風呂屋(日の出湯、母は「出土橋の銭湯」と言っていた)に行って、帰って子供達を寝かし付けてから、夫婦で居酒屋の河童亭に夜な夜な通っていたようである。怪しい集会のようだ。

代表作「ねないこだれだ」

更に私達が思春期になると、母は夕方まで仕事をした後、急いで買い物へ。しかし近所だからの格好が凄まじくて、ジャージのズボンに私達のどちらかのお下がり(?)の体操着の上。なんなら「黒田」のゼッケン、または直にマジックで大きく「黒田」と書いたものを平気で着て、ビーチサンダルにナップザック。その様な出で立ちの人間が商店街を走っているのだ。外で見付けてしまった日は、思わず電柱に身を隠した。

「黒田」マークの服を着ているにも関わらず、母は最後まで黒田さんだった意識が薄く、銀行で名前を呼ばれても、暫く気が付かないのであった。心の中には常に「せなけいこ」が立ちはだかり、10分圏内で全てを済ませられる商店街に助けられながら、常に仕事に邁進して生活をして生きた人であった。

昨年10月23日に92歳で亡くなられた『せなけいこ』さんは、長らく大森三中の近くにお住まいでした。身近にある包装紙などを使った温かみのある貼り絵が特徴で、代表作の「ねないこだれだ」や「おばけのてんぷら」に登場する愛くるしい「おばけ」のキャラクターがよく知られています。すぐ泣き出してしまう子どもが涙に溺れて最後は魚になってしまう「あーんあん」など、自身の子育て経験を基に豊かに発想した独自の世界観とストーリーが今も多くの子どもたちをひきつけています。今号では、娘であり絵本作家の黒田かおるさんにお母さまの思い出を寄稿して頂きました。

せなけいこさんと幼少期の黒田かおるさん

『わがまち新井宿における80年前の記憶』

あの悲しく忌まわしい戦争は、わがまち新井宿にも数々の辛い記憶を残しました。しかしながら敗戦後８０年が経った今、それを現実として記憶していた人々も少なくなっています。平和を愛し、平和を願い、平和を祈る私たちの思いを確固たるものとするためにも、この地に刻まれた８０年前の戦火の記憶を知っておきたいと思います。

疎開という辛い体験

昭和19年6月30日、いよいよ政府は学童疎開促進要綱を閣議で決定するに至りました。当時、小学校は国民学校と名も変えられていて、「戦争に打ち勝つための強いからだと心を持たなければならない」と教えていたのです。しかし、編隊を組んだB29が日本の大都市を次々に爆撃しはじめ、新井宿にも焼夷弾が降ると、ついに昭和19年9月、学童集団疎開が始まりました。

初めは修学旅行気分だった子どもたちも、段々とおとなしくなります。そんな彼らに恐ろしい夜がきました。昭和20年3月10日（東京大空襲）、熱海に疎開していた旅館の窓から、遠く東京の空が真っ赤になっている様子が目に映ったのです。間もなく再疎開（岩手県）の決定が下されました。現在も中央一丁目にお住まいの白石美津子さんは教師としてこの子らに同行した、その辛い体験をのちの世に伝えています。

「建物疎開」、聞きなれない言葉ですが、焼夷弾による火災の延焼被害を少なくするため、新井宿でも多くの民家が取り壊されました。これが建物疎開です。

川端龍子《爆弾散華》と「爆弾散華の池」

昭和20年8月13日、日本画家・川端龍子（かわばたりゅうし）が住む新井宿の一帯に空襲があり、龍子の自宅は倒壊しました。直後に終戦をむかえ大きな喪失感を抱えながらも、龍子は奇跡的に被害が少なかったアトリエで作品制作を続け、《爆弾散華（ばくだんさんげ）》を描き上げています。この作品には、カボチャやトマトといった自家菜園の野菜が、収穫を前に自宅を襲った爆撃で、もの悲しく飛び散っていく光景に、戦争の無惨さが象徴的に表されています。戦後80年、このメッセージはより強く私たちの胸に響きます。

また、爆弾跡は「爆弾散華の池」として龍子が造成し、大田区立龍子公園内に残されています。

（大田区立龍子記念館　副館長　木村拓也）

川端龍子《爆弾散華》昭和20年
大田区立龍子記念館蔵

龍子公園（大田区南馬込四丁目）にある「爆弾散華の池」

龍神様が焼夷弾から守った善慶寺

山王三丁目の善慶寺には、驚くべき逸話が伝わっています。

昭和20年、空襲により新井宿一帯が火の海となる中、善慶寺本堂にも焼夷弾が直撃。しかし不思議なことに、延焼することなく本堂は守られました。

本堂祭壇天井には、昭和4年に奉納された中村民蔵作の「龍神」の天井画が描かれています。水の神とされる龍神様が、まるで炎を鎮めたかのようだったと、地域の年配の方々は語ります。

現在も当時の焼夷弾の実物が保管されており、平和の尊さと共に、龍神信仰の深さを今に伝えています。

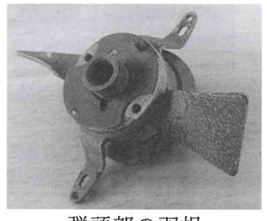
善慶寺本堂

本堂祭壇天井に描かれた「龍神」

焼夷弾

診療所の屋根を貫通した爆弾

旧高橋診療所の現在



弾頭部の羽根

旧高橋診療所（山王三丁目）の玄関近くの屋根を貫通した爆弾の先端部が、今も保存されています。焼夷弾ではなく爆弾頭部の羽根でした。家を失くした見知らぬ家族が屋根裏部屋に住んでいたり、不発だった焼夷弾の燃焼材を取り出し風呂を沸かしたとかの話も。東海道線の線路沿いを、パイロットの顔が見えるほど低空から機銃掃射されたとの証言も残っています。

GHQに接収された大森ホテル

大正元年に開業した望翠楼ホテル近く、現在の山王公園と山王保育園の場所に、大正10年開業をしたのが大森ホテルでした。内外の要人や文人にも愛用され、いくつかの文芸作品にも名前が刻まれています。戦後はGHQ（連合国軍最高司令官総司令部）に接収され、米軍の将軍クラスが使用した太平洋航空路のパイロットたちの宿舎となっていたのです。

在りし日の大森ホテル